



# ひかりのこ

## 2020年度 4月号

日本キリスト教団  
**名古屋新生教会** 教会学校だより  
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820  
 HP: <http://www.13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

2020年度、新たな年度が始まりました。世界的に新型コロナの影響が心配されていますが、みなさんは無事に1つずつ進級し、新たな学年になりました。小学校、中学校、高校、大学へと進んだお友だちもいますね。春は新たな出会いのときでもあります。新たな気持ちで、神さまとの出会いを大切にしましょう。

### 2020年度の教会学校 教会学校の時間帯が変わります

教会学校礼拝はこれまで9:10~でしたが、9:00~に変わります。(10分早まります)  
 小学生は分級がありませんでしたが、9:35~9:55を分級の時間とし、  
 小学1~4年は分級Ⅰ、小学5・6年は中高生と一緒に分級Ⅱに参加します。  
 学年別には次のようになります。

- 小学5年生~中高生...9:00~教会学校礼拝に出席した後、分級Ⅱに参加
- 小学1~4年生.....9:35~分級Ⅰに参加し、その後10:00~こどもれいはいに出席
- 幼児.....10:00~こどもれいはいに出席(分級はありません)

名古屋新生教会：安達正樹 牧師 教会学校代表：武岡 基(「ひかりのこ」担当)  
 その他、お話・奏楽・分級など教会員みんなで教会学校を支えています。  
 はじめてのお友だちも大歓迎です。もちろんお家の方もお気軽に、ご一緒にどうぞ。

### 今月の礼拝 単元1:十字架と復活

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00~9:30	分級Ⅰ(小1~小4) 分級Ⅱ(小5~中高生) 9:35~9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00~10:20
4月5日 受難週	十字架	ヨハネ福音書 19:17-30,38-42	武岡路実	(小学生・中高生合同) 自己紹介・誕生日会	武岡 基
4月12日 イースター	マグダラのマリアに 主イエスが姿を現す	ヨハネ福音書 20:1-18	安達正樹牧師	(幼児~大人合同) たまご探し	安達正樹牧師
4月19日	弟子のトマスに 主イエスが姿を現す	ヨハネ福音書 20:19-29	林 小夜子	Ⅰ:武岡 基 Ⅱ:武岡路実	安達いづみ

### 単元2:祈り

4月26日	祈りとは	マタイ福音書 6:5-8	武岡 基	Ⅰ:安達いづみ Ⅱ:武岡 基	武岡路実
-------	------	-----------------	------	-------------------	------

### イースター礼拝 4月12日(日) イエスさまの復活をお祝いしましょう。

教会学校礼拝(小5~中高生) 9:00~  
 「たまご探し」(幼児~大人) 9:35~  
 こどもれいはい(幼児~小4) 10:00~



お友だちを誘ってぜひ出席しましょう。

### 今月の聖句

信じない者ではなく、信じる者になりなさい。

(ヨハネ 20:27)

### 今月のさんびか



#### こどもさんびか 83 (いばらのかんむりかぶせられ)

4月の教会学校ではイエスさまの十字架への道、十字架での死と復活について学んでいきます。今月のさんびか「いばらのかんむりかぶせられ」は、1983年『こどもさんびか2』の出版にあたって公募した中から選ばれた作品で、日本で作られた新しい賛美歌です。

作詞者の桃井綾子さん(1932~)は牧師として教会などで牧会され、またキリスト教視聴覚センター(AVACC)のお話集やキリスト教保育誌の執筆などで活躍されてきました。作者によれば、この詞はエルサレム滞在中に浮かんだものだというので、「40日間の共同農場での生活を終えて帰国しようとしていた時、キプロス島で内戦が起こり、空港が閉鎖されてしまいました。不安な思いの中で、エルサレム市街の主イエスが歩まれた涙の道(ヴィアドロロサ)を歩きました。時は流れても、まだ人間は戦い、憎みあって現実。今も十字架を背負って歩かれる主がそこにおられました。私たちの現実の中で、今も執り成しを続けられるイエスさまの姿を表したかった」と述べています。

作曲者の山元富雄さん(1941~)は東京芸術大学大学院で学び、東京交響楽団、東京都交響楽団のトロンボーン奏者を長年務められています。またアマチュア・オーケストラの指揮や指導、また作曲・編曲などにも数多く携わっています。トロンボーン奏者である作曲者は、この楽器の響きをもって「十字架を背負って死に向かわれるイエスさまの姿」というイメージを表そうとしているように感じられます。作曲者自身、「十字架への重苦しい足取りを“イ短調”の行進曲で表し、イエスさまの愛を最後の導音“G#(＃ソ)”からの解決で表現できるようにとの想いを与えられて創作しました」と語っています。

私たちがレント(受難節)を過ごすのは、単なる宗教上の暦に従うことではなく、今なお涙の道を十字架を背負いつつ歩み、私たちの執り成しを続けてくださっている生きた主イエスさまをそこに見なければならぬでしょう。私たちのありのままを直視させられる賛美歌です。



### がたんじょうびおめでとう

### 4月生まれのお友だち

#### 「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう？教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、一般の日本人が持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇め、神さまを賛美する場ではありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけてくださるのです。これが「前奏」「招詞(招きの言葉)」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話」です。「説教」「お話」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰であっても、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福(祝祷)」「後奏」で終わるのです。